

「臨床心理学」における教員養成への貢献

教育学部・相模健人

1. 授業の基本情報

平成 28 年度より学部改組されたことにより、従来、学校教員養成課程「教育臨床心理学」として行っていた科目を小学校サブコース小学校教育拡充科目「臨床心理学」として新たに開講した。これにあたり、教職についたときに役立つよう講義内容について実践的内容を多く盛り込んだものとした。この授業内容について学生に尋ねるアンケートを行ったものを報告する。

アンケートは最終回の授業時に行った。登録受講者 9 名の内、最終回に出席した 7 名が回答した（2 回生 6 名、4 回生 1 名）。内容は現在の進路希望（選択式）、受講動機、受講した印象、授業内容が進路に対してどう役立つか、各回の授業内容がどう役立ったか（選択式）、地域社会を核とした教育と研究のつながりについて、授業の自由な感想の 7 問である。

2. 授業評価の内容

現在のところの進路希望では全員が教師になることを希望している。

受講動機としては「教師になってからもあらゆる面で心理学のアプローチは生かせるのではないかと考えたからです」「心理関係に興味をもっていて、将来教師として現場で働く時にも学んだことが生かせると思ったから」という教師になって学校現場で臨床心理学の知識を役立てたいという意識があるものが伺える。これについては「前期の（教育）相談論が教師になってからも役立つと思ったから」といった前期の教育相談論の内容を発展させていきたいという意志がある者や「カウンセリングのように児童のメンタルのケアができる、気持ちのよめる教員になりたいから」といった教員像を抱いている者もいた。また、「心理学に興味があったから」「臨床についても学んでおきたかったから」といった心理学自体に興味を持っている者もあり、心理学に興味を持ち、それを実践できる教員に

なりたいという動機で受講している。

受講しての印象も「すごく身についたように思います。カウンセラーの存在は今まで以上に大切な存在だと思うようになりました」「実践的にカウンセリングの勉強ができてとても身になり楽しかった」という意見が多く、「クラス内での雰囲気づくりだけでなく、家庭内での問題にも応用できると思った」といった応用を考えている者もいた。

授業内容が進路に対してどう役立つかについては「学級経営の面においても、子どもの相談にのる場合にも役立つような方法をたくさん教えていただきました」「児童と接するときのみならず、保護者と関わる時や教育相談を受けた際に役立つと思った」といった意見があり、学級経営、個別相談で役立てたいという意見が多かった。

各回の授業内容は殆どの者が役立ったと回答しており、授業内容の変更は教員養成に意義があると考えられる。

授業の自由な感想では「さらに様々なジャンル、分野の心理学について学習し、対応、対処の引き出しをどんどん多くしていきたいと思った」という向学心を起こしており、「本当に自分の視野が広がりました。教師になってからも実践していきたいです」といった感想が多く見られた。

3. 地域社会を核とした教育と研究のつながり

これらについては「教員として働く中で、児童、保護者、教員間での問題はたくさん出てくると思う。その中で問題を解決するため、仲介できる力を教育環境を整えるという意味でとても意味のあることだと思った」「児童のメンタルケアは近年問題になっている『いじめ』や家庭環境もケアしていけるのでよいと思います」「アプローチの仕方や数少ない情報から相手の特徴や性格を読み取ることなど」といった学校での具体的実践を想定したものが多く見られている。